

0～1 歳ごろの子どもの発達 服部敬子（京都府立大学）

※講師資料より、タイトルの項目のみ抜粋

0. 人生の土台としての乳児期

子どもと養育者への支援：睡眠、体幹、かむ力、7つの感覚、基本的信頼感の獲得、コミュニケーション etc

1. 「発達のつながり」を捉える視点

タテのつながり（発達連関）：ある段階から次の段階への変化

ヨコのつながり（機能連関）：ある時点における身体・運動面～手指の操作面～認知・言語面～自我・対人交流面…という各局面に着目して全体の発達状態をみる。

2. 発達の質的变化を捉える視点①

静かな法則性

発達の質的变化を捉える視点②

ダイナミックな法則性

（i）乳児期前半の発達

乳児期後半への飛躍的移行期 ～可逆対追視の獲得～

乳児期後半へ 移動・手指の操作・情動表出の自由を獲得していく

（ii）乳児期後半の発達

ことばの土台づくり

9～10 か月ごろ イメージの発生（いないいないばあ遊びやかくれんぼで「間」のあるやりとり）

○保育者に支えられ媒介されて集団（的な活動）がうみだされる「3極関係」への着目

（田中昌人・田中杉恵、1981）

○おいしく食べる介助のポイント ★捕食を育てる★

介助法のポイント ★スプーンの入れ方★

手づかみ食べる意義

○1歳半ば～自我の誕生

道具を使うようになることの意義

スプーンの持ち方、持たせ方

鉛筆の持ち方、描き方

効き手について（田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断3』P222～223より）

【参考文献】

『新・育ちあう乳幼児心理学』心理科学研究会[編]有斐閣

『子どもの発達と診断1 乳児期前半』田中昌人・田中杉恵[著]大月書店

『やさしく学ぶからだの発達 Part 2』林万リ[監修]全障研出版部